



平成27年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年5月13日

上場会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 上場取引所 ・ 東
 コード番号 6063 URL http://emergency.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 一正
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 前川 義和 TEL 03-3811-8121
 四半期報告書提出予定日 平成27年5月15日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨)

1. 平成27年12月期第1四半期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第1四半期	753	20.2	48	-	45	-	39	-
26年12月期第1四半期	626	14.3	△4	-	△6	-	△4	-

(注) 包括利益 27年12月期第1四半期 38百万円 (-%) 26年12月期第1四半期 △10百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第1四半期	32.30	31.63
26年12月期第1四半期	△4.13	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期第1四半期	2,136	622	29.1	510.97
26年12月期	1,995	594	29.8	489.69

(参考) 自己資本 27年12月期第1四半期 621百万円 26年12月期 594百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	-	0.00	-	10.00	10.00
27年12月期	-	-	-	-	-
27年12月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	1,280	14.0	△50	-	△55	-	△60	-	△49.63
通期	2,500	13.6	30	-	25	-	10	-	8.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期1Q	1,216,200株	26年12月期	1,213,400株
② 期末自己株式数	27年12月期1Q	74株	26年12月期	74株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年12月期1Q	1,213,619株	26年12月期1Q	1,204,934株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府ならびに日銀による財政政策・金融緩和を背景に企業収益及び雇用情勢には回復の動きが見られましたが、消費増税や円安による物価上昇に伴い個人消費の低迷が持続するなど、全体的にはやや足踏みを感じさせる状況で推移しました。

また、海外の経済情勢は米国経済が堅調に推移しているものの、欧州においては景気回復力が弱く、アジア・新興国も経済成長が鈍化する等総じて不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業の業績に影響を与える海外出国者数につきましては、円安や海外でのテロ等の影響により、1月は1,235千人（前年同月比1.4%減）、2月は1,262千人（前年同月比10.2%減）、3月は1,530千人（前年同月比4.2%減）と対前年同期比で減少となりました。

一方、海外からの訪日外客数は、円安による旅行費用の割安感の浸透、消費税免税制度の拡充、桜ツアーなど季節的な訪日旅行プロモーション等の効果もあり、1月は1,218千人（前年同月比29.1%増）、2月は1,387千人（前年同月比57.6%増）、3月は1,526千人（前年同月比45.3%増）と前年と比較して大幅に増加し、1月から3月の累計人数でも4,131千人（前年同期比43.7%増）と大きく増加しました（日本政府観光局（JNTO）調べ、2、3月はJNTO推計値）。

当第1四半期は、当社の主要業務である日本人顧客向けの医療アシスタンス事業にとっては、出国者の減少という難しい環境下でしたが、当第1四半期の売上はいくつかの大型搬送案件の発生等の偶発のプラス要素により比較的好調に推移いたしました。国際医療事業につきましては、訪日医療患者の数が堅調に推移したことに加え、当第1四半期は政府関連事業の売上が計上されたことで売上が伸びました。これら幾分幸運な状況から、第1四半期連結累計期間の売上は753百万円となり、前年同期と比べ20.2%の増収となりました。

費用に関しましては、円安による海外コストの増加と事業規模の拡大に対応する支出増で前年同期比では増加しておりますが、2015年の経営目標である「EJリエンジニアリング」に基づきコスト削減を図ったため費用増は一定程度抑制され、想定以下となりました。

この結果、売上原価は590百万円（前年同期比13.1%増）、販売費及び一般管理費が114百万円（前年同期比5.4%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の営業利益は48百万円（前年同期営業損失4百万円）、経常利益は45百万円（前年同期 経常損失6百万円）、四半期純利益は39百万円（前年同期 四半期純損失4百万円）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

(医療アシスタンス事業)

前述のように円安やテロに対する不安の影響で海外出国者数は大幅に減少しており、当社事業にとっては大きなマイナス要因ではあるものの、シェアアップによる売上の増加とセキュリティー事業の拡大や大型搬送案件の発生、政府関連事業の売上計上などが当四半期業績に好影響を与えたため、第1四半期累計期間合計で営業利益はプラスで推移いたしました。

今後も損害保険会社向けアシスタンスサービス業務量の拡大に備え、引き続き体制強化を図ってまいります。具体的にはすべての海外センターへ高機能電話システムの導入を完了しました。また、基幹業務システムの改修を継続し、要員配置をできる限り迅速に変更出来、環境の変化や偶発的な出来事に対応できる効率の良い体制づくりを続けます。

国際医療事業では、特にアウトバウンド事業でアラブ首長国連邦（UAE）と日本の医療分野における協力強化事業において平成27年度産油国石油精製技術等対策事業費にかかわる補助事業者に採択されました。また、インバウンド売上は中国からの患者受入を中心に堅調に推移しております。

最近、世界各地でテロや内乱等に遭遇するセキュリテリスクが高まっており、特に企業法人では日本語でのサービス提供を含む、日本企業向けのトータルリスク管理をワンストップで行って欲しいと言う要望が多く、これに対応するため従来はアジア地域限定で提供していたセキュリティー・アシスタンスサービスを全世界で提供できるように変更し、すでに新規顧客を獲得しサービスを開始しております。

これらの結果、医療アシスタンス事業の売上高は648百万円（前年同期比23.1%増）、セグメント利益は107百万円（前年同期比113.6%増）となりました。

(ライフアシスタンス事業)

既存顧客へのコンシェルジュサービスの着実な提供で、売上高は順調に推移しております。また、昨年から実施した海外ホテル予約に対する海外チェックインアシスタンスサービスの提供、新規顧客へのサービス提供も順調に推移しております。

この結果、ライフアシスタンス事業の売上高は105百万円（前年同期比5.1%増）、セグメント利益は27百万円（前年同期比9.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ141百万円増加し、2,136百万円となりました。主な増減要因としては、国際医療事業プロジェクト等の売上に対する売掛金の151百万円増加、損害保険会社等に対する立替金の100百万円増加、国際医療事業プロジェクトの売上原価計上に伴う仕掛品の78百万円の減少がありました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ113百万円増加し、1,514百万円となりました。主な増減要因としては、立替金等の確保のため金融機関から借入を実施した結果として短期借入金が増加し、損害保険会社等との年間契約料締結に係る前受収益の56百万円の増加等がありました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ27百万円増加し、622百万円となりました。これは主に、四半期純利益が39百万円発生したこと、12百万円の配当金の支払いのために資本剰余金が結果として11百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期累計期間の業績は、対予算、対前年に比べ大幅な改善となりましたが、これは一時的な要因によるものが多く、一層の円安による海外費用の増加、及び円安と海外不安による海外への出国者数の減少は当面続くものと予想されるため、当社業績への影響は引き続き予断を許さない状況であります。

以上のような状況を勘案いたしまして、現状では平成27年2月13日に公表いたしました業績予想は変更せず、引き続き業容の拡大とEAJリエンジニアリングを進めてまいります。なお、詳細は平成27年2月13日に別途公表している「平成26年12月期決算短信」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	682,126	647,298
売掛金	159,979	311,902
仕掛品	78,601	—
立替金	716,723	817,632
その他	56,001	58,828
貸倒引当金	△2,828	△3,772
流動資産合計	1,690,605	1,831,889
固定資産		
有形固定資産	105,489	107,433
無形固定資産	159,949	152,839
投資その他の資産	39,580	44,539
固定資産合計	305,019	304,813
資産合計	1,995,625	2,136,702
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,859	16,339
短期借入金	680,000	750,000
1年内返済予定の長期借入金	76,656	76,656
未払法人税等	5,602	5,269
前受収益	162,885	219,865
賞与引当金	—	26,347
その他	281,576	249,341
流動負債合計	1,211,578	1,343,820
固定負債		
長期借入金	184,474	165,310
その他	5,020	5,145
固定負債合計	189,494	170,455
負債合計	1,401,073	1,514,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	297,483	298,358
資本剰余金	211,434	200,175
利益剰余金	31,482	70,688
自己株式	△113	△113
株主資本合計	540,286	569,109
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	282	590
為替換算調整勘定	53,586	51,702
その他の包括利益累計額合計	53,869	52,293
少数株主持分	395	1,024
純資産合計	594,552	622,427
負債純資産合計	1,995,625	2,136,702

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	626,691	753,334
売上原価	521,693	590,259
売上総利益	104,997	163,075
販売費及び一般管理費	109,020	114,921
営業利益又は営業損失(△)	△4,022	48,154
営業外収益		
受取利息	258	395
助成金収入	409	493
その他	3	6
営業外収益合計	671	895
営業外費用		
支払利息	1,892	1,841
為替差損	804	2,015
持分法による投資損失	303	—
その他	91	91
営業外費用合計	3,091	3,948
経常利益又は経常損失(△)	△6,443	45,101
特別損失		
固定資産売却損	30	—
固定資産除却損	4	1,667
特別損失合計	35	1,667
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△6,478	43,433
法人税等	△1,504	3,604
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△4,974	39,828
少数株主利益	—	622
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,974	39,205

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△4,974	39,828
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	—	307
為替換算調整勘定	△5,368	△1,877
持分法適用会社に対する持分相当額	89	—
その他の包括利益合計	△5,278	△1,570
四半期包括利益	△10,252	38,258
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,252	37,629
少数株主に係る四半期包括利益	—	629

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月26日 定時株主総会	普通株式	12,049千円	10円	平成25年12月31日	平成26年3月27日	資本剰余金

当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)

配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月25日 定時株主総会	普通株式	12,133千円	10円	平成26年12月31日	平成27年3月26日	資本剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	医療アシスタ ンス事業	ライフアシスタ ンス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	526,785	99,906	626,691	—	626,691
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	526,785	99,906	626,691	—	626,691
セグメント利益又は損失 (△)	50,162	30,827	80,989	△85,012	△4,022

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失 (△) の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	医療アシスタ ンス事業	ライフアシスタ ンス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	648,332	105,002	753,334	—	753,334
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	648,332	105,002	753,334	—	753,334
セグメント利益	107,129	27,967	135,096	△86,942	48,154

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。